

■今月の特選句

2013年11月号

台風の生まれ予報士いきいきす

有富洋二

「視聴率高きに出番無理もなし」「台風の多き年には上機嫌」「この批評気象庁には内密に」「滑稽の俳人ポイント見逃さず」。

骨折を危惧し山芋には添へ木

小林英昭

「自然薯は痩せこけてゐる脛みたい」「齧られ細る老爺の脚か」「帰宅して添へ木を外す時楽し」「播り鉢で擦る労は惜しまず」。

下半身略されてをる案山子翁

柳 紅生

「されども脚の二本は怖い」「昔から一本脚が相場なり」。もっと昔は腐肉を吊るし嗅がせたことを嗅がしと呼んでそれが訛ったらしいんだよね。

CDの第二の職場鳥威

高橋きのこ

「カラヤンカラカラ音立て光る」「CDの威しにめげず雀らは光る鏡と化粧直しか」「CDは第二の職場あるけれど俺の光るは後頭部だけ」。

ファッションのつまるところは丸裸

酒井鹿洋

「省略の究極として俳人も余分な文字をはぎとるがよし」「ファッションのつまるところは風邪をひきハクションなどと鼻をつまらず」。

秋の蚊の待ち伏せに遭ひ勝手口

高橋マキコ

「裏口に待ち伏せをしてストーカー」「ストーカーの正体見たり秋の蚊よ」「待ち伏せをされしマキコや悲鳴あぐ」「電気蚊取りのスイッチをON」。

■今月の秀逸句（・・・七七をつけてみました）

- マドンナの鎖骨に汗の玉光る
・・・ヘップバーンの首飾りとも
田中早苗
- スカートの上に敷かれし紅葉燃え
・・・草紅葉てふ季語となるなり
栗倉健二
- 救急車キコキコ泣くや虫時雨
・・・秋篠宮もキコキコと言ふ
上山美穂
- 女郎花くっついて咲く男郎女
・・・草の世界に陽陰のあり
西をさむ
- くぐり来し修羅場の数だけ夜長酒
・・・修羅場をひとつ今夜も増やす
金澤 健
- 言訳はしどろもどろの神の留守
・・・留守でなくてもやつてるくせに
永島董玉
- 終活の話題沸騰敬老日
・・・孫は就活婆は終活
高橋素子
- 見たきもの人のこころと月の裏
・・・それは川柳にお任せなさい
有吉堅二
- 悪戯はくり返すこと猫じゃらし
・・・またも失言閣僚たちは
稲沢進一
- 植ゑた筈なき草ばかり生ひ繁る
・・・雑草園と呼び名を変えむ
ひがし愛

天道の授けし褒美玉の汗

・・・副賞として筋肉痛も

山下正純

うそ寒し絆の切れる遺産分け

・・・春になつても寒い思ひ出

青木輝子

昼食を食べた直後に葡萄狩

・・・計画性がなくちやだめだよ

伊藤浩睦

■今月の滑稽句

- | | | |
|------|---|-------------------------|
| 【佳作】 | 人の世の妬みと僻みうすら寒
生身魂これより先はミステリー | 青木輝子
青木輝子 |
| 【佳作】 | 胸のうち知らずに別れる秋なりき
短日のあまた迎へて人は灰
出穂のみを伐りたるごとく見ゆ秋田 | 青山桂一
青山桂一
青山桂一 |
| 【佳作】 | 台風禍須磨浦美しき二重虹
ひとり言オノマトペにてぬくめ酒
青き空艶とほほえむ花芙蓉 | 秋月裕子
秋月裕子
秋月裕子 |
| 【佳作】 | 歌ふのが定めなんですキリギリス
稲雀一匹狼などは居ず
強がれど負けは明らか破芭蕉 | 麻生やよひ
麻生やよひ
麻生やよひ |
| 【佳作】 | ただならぬ気配ふたりに夕時雨
見つめられ困ってしまう冬の月
居場所などなくて静かに神の旅 | 足立淑子
足立淑子
足立淑子 |
| 【佳作】 | 秋の灯を増やして呑み屋客誘ふ
町内の端役蹴りて秋刀魚焼く | 有富洋二
有富洋二 |
| 【佳作】 | 目よりまづ鼻の見つける金木犀
ラフランス姿形はいふまじく | 有吉堅二
有吉堅二 |
| 【佳作】 | セキレイのジョギング速し皇居前
骸骨を背負ったシャツで運動会 | 栗倉健二
栗倉健二 |
| 【佳作】 | カステラは厚切りがよし昼の虫
一人っ子は淋しからむと夜なべかな
芋嵐合羽を着たる犬に遭ふ | 飯塚ひろし
飯塚ひろし
飯塚ひろし |
| 【佳作】 | 今日はウキウキ明日メソメソ赤トンボ
秋祭り過ぎてモヒカン褪せてゆく
運動会メガネの男さらふ児よ | 井口夏子
井口夏子
井口夏子 |
| 【佳作】 | やがてゆく冥土はどちら彼岸花
祭太鼓浮かれ少女の乱調子 | 池田亮二
池田亮二 |
| 【佳作】 | 晩秋や免疫細胞オペラ聴く
はらわたで大人度測る秋刀魚かな | 石川節子
石川節子 |

【佳作】	東北へ予定延長神の旅 指相撲米寿優勝返り花 強霜や女房を叱り倍返し	伊地知寛 伊地知寛 伊地知寛
【佳作】	秋の空全く見えぬ潜水艦 栗飯かいや栗飯の山の宿	伊藤浩睦 伊藤浩睦
【佳作】	赤とんぼ今も少年かも知れぬ 大地よりたぎるは血潮曼珠沙華	稲沢進一 稲沢進一
【佳作】	台風や予報の雨量超えており 空蝉と知りつつ土に埋めにけり 十月や翌年の顔見え隠れ	井野ひろみ 井野ひろみ 井野ひろみ
【佳作】	青すだち巢立ちも近い孫ふたり 空蝉の背に辻きりの傷を負い 死んだ振りぶんぶん虫の手口かな	入江澄泉 入江澄泉 入江澄泉
【佳作】	点滅の戀の信号秋の宵 骨折れる愛猫の秋刀魚の骨とりは	上山美穂 上山美穂
【佳作】	小春日や猫の欠伸を貰ひたる 芸術の爆発するや文化の日 綿虫の影を慕いて影を見ず	氏家頼一 氏家頼一 氏家頼一
【佳作】	患者食早し良夜を持って余す 老猫が話し相手の良夜かな 嫁に行く気のなき娘新走り	越前春生 越前春生 越前春生
【佳作】	毬栗や口あぐりと呆れ顔 秋波とは何のことかと夕芒 秋暑し想ひ出横町人まばら	奥脇弘久 奥脇弘久 奥脇弘久
【佳作】	電話待つ母黙々と栗を剥く 初冠雪熱中症の癒えぬのに おもてなしなり新米の艶香	加藤澄子 加藤澄子 加藤澄子
【佳作】	いわし雲五輪開催まで七年 小吉の神籤どんぐり肩に落つ 散歩道変へず石榴の熟るまで	加藤 賢 加藤 賢 加藤 賢
【佳作】	赤蜻蛉我も逃げたや手術室 落ち蝉よ十六年も生きた犬 掃除終え仏と共に三尺寝	門屋 定 門屋 定 門屋 定

- | | | |
|------|--|-------------------------|
| 【佳作】 | 葉書来し残暑を見舞ふ字の震へ
寛容と呆けの一如や生身魂 | 金澤 健
金澤 健 |
| 【佳作】 | 曼珠沙華ギャルの得意な付け睫
鶏頭の二十本程円形に
秋暑しふる里で買ふ洪団扇 | 川島智子
川島智子
川島智子 |
| 【佳作】 | 医者もまた足腰託つ秋の暮
デパ地下の手作り弁当運動会
秋風に折れて安泰夫婦仲 | 菅野あたる
菅野あたる
菅野あたる |
| 【佳作】 | 内密は漏らすものなり曼珠沙華
燃えに燃え冷たきからだ紅葉かな
秋雲や池に浮かびて空を見る | 久我正明
久我正明
久我正明 |
| 【佳作】 | 曼珠沙華にはとり小屋を包囲せり
唐突に火蓋切られて曼珠沙華
曼珠沙華火付盗賊改むる | 工藤泰子
工藤泰子
工藤泰子 |
| 【佳作】 | 中秋の月まるまるとお・も・て・な・し
オバマ様オバナのやうにしなやかに | 黒田忠一
黒田忠一 |
| 【佳作】 | 今朝の蚊を昨夜の仇と打ちにけり
鶯の尾の上がりなば毬の落つ
友に有り吾に無き辛抱夏果てる | 小泉花子
小泉花子
小泉花子 |
| 【佳作】 | 台風の被害はいつも着払ひ
浪人の兄に相伴する夜食 | 小林英昭
小林英昭 |
| 【佳作】 | 七年後五輪見るぞと誓う古稀
古稀夫婦五輪積立開始する
七年後夢見て走る孫十歳 | 齋藤八兵衛
齋藤八兵衛
齋藤八兵衛 |
| 【佳作】 | 雷神のねらふ女性のヘソあまた
騎馬戦に女の執念運動会 | 酒井鹿洋
酒井鹿洋 |
| 【佳作】 | 新米炊く神嘗祭の来る前に
藪枯蔓引つ張れば柿を挽ぐ
黒猫の眼光れり刈田中 | 佐野萬里子
佐野萬里子
佐野萬里子 |
| 【佳作】 | 鉄路行く赤のまんまや北の国
天高くネットがペットスマートフォン
家離れ出来ぬ中年秋湿り | 柴田止揚
柴田止揚
柴田止揚 |

【佳作】	お宝になり損ねたる生身魂 馬肥ゆるビタミン剤をしばし已め 締切りの満ちくる日々や鉦叩	下嶋四万歩 下嶋四万歩 下嶋四万歩
【佳作】	籠枕妻の小言のよく通り よく響く風鈴の音や妻の留守 潜りたい潜りたいかな水馬	壽命秀次 壽命秀次 壽命秀次
【佳作】	食欲の秋ダイエット先送り マネキンの案山子にしばし見蕩れけり 母主役父は端役や村芝居	白井道義 白井道義 白井道義
【佳作】	残りの人生バナナのカーブに添っていく キチキチバッタ夏を一緒に終わろうか トンボもバッタも止まった恩師の句碑	鈴木和枝 鈴木和枝 鈴木和枝
【佳作】	朝寒く体動かすスニーカー 秋深くタンスの中の着替えかな 朝寒や納豆チーズとおいしそう	鈴木哲也 鈴木哲也 鈴木哲也
【佳作】	昼行灯生き生きしてる夜学かな 鳴く犬に泣かされており夜長かな 乍ら族五球スーパー菊日和	高田敏男 高田敏男 高田敏男
【佳作】	笑ひ茸かもしれぬと笑ひつつ 大股を開きて大利根はさむ虹	高橋きのこ 高橋きのこ
【佳作】	日の光突き刺すような秋の宵 高層階床上浸水野分跡	高橋マキコ 高橋マキコ
【佳作】	秋の声三つの耳に口一つ 竜巻は入道の脚雲の峰	高橋素子 高橋素子
【佳作】	木つつきの大工さんご多忙なり 野分さり追ひつ抜かれつ雲の群 さんま祭煙の道になりけり	田中章子 田中章子 田中章子
【佳作】	あの野郎の憎し余る鳥かぶと 木屋のスターの匂ひ放ちけり 稲妻の心臓えぐるなりけり	田中 勇 田中 勇 田中 勇
【佳作】	黒き顔艶を増しゆく残暑の日 シャッターに閉店貼紙大西日	田中早苗 田中早苗

	松茸や身の程知れと財布言ふ 敬老日翌日からは軽老日	田村米生 田村米生
【佳作】	交番で穴を尋ねる穴まどひ	田村米生
【佳作】	横綱は外つ国ばかり大相撲 ひとりもの未だ片付けず古簾 冷ややっこ日本のチーズと言いて食べ	津田このみ 津田このみ 津田このみ
【佳作】	秋澄むや写経する手の怒りたる ガキ大将はな垂れ小僧九里香 背中押すほほ笑みかける曼珠沙華	土屋泰山 土屋泰山 土屋泰山
【佳作】	人間も吃驚案山子のリアリティー 敬老日いや軽老日かも知れず 周回やぶりも一等体育日	都吐夢 都吐夢 都吐夢
【佳作】	むかしなら酔はぬ一合新酒酌む 看板に偽りのなき蕎麦啜る 今朝の秋妻を二度呼びおおいお茶	飛田正勝 飛田正勝 飛田正勝
【佳作】	転びても泣かず離さぬ千歳飴 木の葉髪がんばがんばと励まして	永島董玉 永島董玉
【佳作】	したまがりまっ赤な嘘は嫌いです 花木槿枕濡らせばそこに紅	西をさむ 西をさむ
【佳作】	ビールのまま衣も替えず祭り来る 睨みでは負けじと新米守護案山子 木犀は祭の香りと鼻が言う	花岡直樹 花岡直樹 花岡直樹
【佳作】	砂被横綱落ちてきたりけり 雄叫びて野分しているアナウンサー わが輩もねこも退屈猫じゃらし	原田 曄 原田 曄 原田 曄
【佳作】	マネキンの案山子にファンが群がれり 生きてゐるだけで出世やハマチ・鰯	ひがし愛 ひがし愛
【佳作】	村興し揃うた出揃ろた案山子んぼ 段畑にフィナーレとなる案山子ショー のつべらぼうの案山子に止まる雀どち	久松久子 久松久子 久松久子
	秋刀魚食べたし焼けば煙たし 要件のみえぬ電話や秋の雨	日根野聖子 日根野聖子

【佳作】	一粒ごとに水面窪ませ秋の雨	日根野聖子
【佳作】	眩けるごきぶり秋の齢の声 飛蝗追ふ勢子の媪の草筆り 釣瓶落し清盛扇ブーメラン	藤岡蒼樹 藤岡蒼樹 藤岡蒼樹
【佳作】	ペリカンもカナリアも虫聞いてゐる 虫の夜東京ドーム二つ分 今よりも昔大好き秋祭	藤森荘吉 藤森荘吉 藤森荘吉
【佳作】	野菊一輪写真に活けて夏の果 母さんの背筋のしゃんと秋裕 雨粒の窓駆け上がる野分かな	藤原セツ子 藤原セツ子 藤原セツ子
【佳作】	遅れ馳せながらの墓参曼珠沙華 秋薔薇の香を満たし友迎ふ 子らの声雨にも負けじと秋祭	松井寿子 松井寿子 松井寿子
【佳作】	口を突く演歌恥づかし薄もみじ 怒る螞蟷洗濯機の渦に落ち 昔少女を取り合って古稀赤まんま	松井まさし 松井まさし 松井まさし
【佳作】	ジゴロとて鳥に餌やる秋の暮 トリオくみライブハウスや虫すだく 妻多弁夫無口や秋の宵	松尾軍治 松尾軍治 松尾軍治
【佳作】	祝五輪老いは埒外夏果つる 満月もフクシマの海輝けず クラス会光頭ならぶ秋の暮	丸山紘一 丸山紘一 丸山紘一
【佳作】	考へる葦にはなれぬ案山子かな 里からの気配り詰る栗の味 訳有りの秋果山盛りされてをり	三塚不二 三塚不二 三塚不二
【佳作】	おでんにも合うじゃないか赤ワイン 秋晴やベビーカーの子よく眠る 想定外のハト来て泣き出す白帽子	三橋百笑 三橋百笑 三橋百笑
【佳作】	天の川城は夜更けのシルエット 寝ぬる吾を揺り動かして虫の声 ラジカセや家電売場の蟬時雨	宮森 輝 宮森 輝 宮森 輝
【佳作】	勝譲る兄の手太し木の実独楽 後の月我は退化の尾を揺らす	百千草 百千草

	いのこづちお前も人の恋しいか	百千草
【佳作】	流れ星待てない人の願い事 長月の皺くちや顔の笑い声 蓑虫の居留守上手夜行性	森岡香代子 森岡香代子 森岡香代子
【佳作】	全国が五色五輪で一色に 七年後娑婆か彼岸か敬老会 雨あらし爪痕のこす苦月かな	森 要 森 要 森 要
【佳作】	紅茶にもいろんな種類秋のカフェ 膝下が今日は夜寒と言つてゐる 体重計が論より証拠食の秋	八木 健 八木 健 八木 健
【佳作】	美女平八千草薫る秋思かな 福島の地図の形は桃の尻 クラス会どう暮らす会敬老日	八洲忙閑 八洲忙閑 八洲忙閑
【佳作】	秋風の補聴器照準合ひ易し 医者急に優しくなりて肌寒し	柳 紅生 柳 紅生
【佳作】	頭を撫でる新米ナースのくりくり目 生欠伸終章なりか枯コスモス 秋日和ねずみ転がす吾が子猫	柳澤京子 柳澤京子 柳澤京子
【佳作】	残り陽や日に日に遠き蟬の声 人をして言葉少なに茗荷汁	山下正純 山下正純
【佳作】	彼岸花背筋真直ぐに咲きにけり 老骨に鞭打つてゐる秋簾 東京五輪の話題に沸くや敬老日	山本けい子 山本けい子 山本けい子
【佳作】	ずるずると敬老の日をやり過ごし 予定日にきつちり咲いて曼珠沙華 指二本入れて整へ祭髪	山本 賜 山本 賜 山本 賜
【佳作】	無気力も健康法や酷暑かな 老いの家乗っ取られをり夏休み 予報官朝から炎暑煽り立て	横山喜三郎 横山喜三郎 横山喜三郎
【佳作】	大粒の泪あらはに彼岸花 秋涼しからんころんと下駄の音 赤とんぼ邪馬台国は何処にや	渡辺さだを 渡辺さだを 渡辺さだを